

岡山県総社市



備中国分寺

備中国分寺は、聖武天皇の発願によって諸国に建立された国分寺の一つです。南北朝時代に当時の建物は消失しており、その全貌は明らかになっていませんが、数多く残る礎石から創設当時の壮大さをしのぶことができます。

現在の建物は江戸時代に再建されたものですが、寺跡は国指定の史跡です。

また、境内にそびえる五重塔は、県内唯一の五重塔で、国の重要文化財にも指定されています。

総高34.3mの巨塔で、3層までは檜材、4・5層は松材を主に使用し、塔の中央には礎石から相輪まで及ぶ巨大な心柱が設置されています。

初層には大日如来を中心に五智如来が安置されており、天井板には天女や季節の花々といった彩色画が描かれ、堂内を厳かに華やかに彩っています。

吉備路の中心にそびえたつその姿は、まさにシンボルとも言うべきいでたちです。

井山宝福寺



水墨画で大成した雪舟が幼少のころ修業し、涙でネズミの絵を描いたという逸話で知られています。臨済宗東福寺派の中本山で、多くの高僧を生み出している地方にはめずらしい大きな寺です。

仏殿や方丈などの七堂伽藍を備えた境内は、禅宗特有の趣を感じさせます。

名勝豪溪



名勝豪溪は、温かな風土の総社地方の中でも異なった趣で知られています。

溪谷には、江戸時代末期、備前吉永出身の漢詩人で医者でもあった武元登々庵書の「天柱」の二字を刻んだ天柱峰をはじめ、剣峰、雲梯峰、盒子岩などの花崗岩のきりたったがけや石柱が横谷川の溪流の両岸に群立しています。これらの岩石美と清流・紅葉の調和が壮大な自然美を造り出す景勝の地で、国の名勝地に指定されています。

鬼ノ城



標高400m～600mの吉備高原の南縁に位置する古代山城で、吉備津彦命の鬼退治の舞台としても有名です。城壁で囲まれた城内は約30ヘクタール(東京ドームの約6.4倍)に及ぶ広大なもので、水門が6か所、場内の出入口となる城門が4か所、食料貯蔵庫と考えられる礎石建物跡などが確認されています。

きびじつるの里



きびじつるの里は、備中国分寺から車で5分の「国民宿舍サンロード吉備路」に隣接する施設です。

タンチョウ飼育施設としては、全国で第5位の飼育規模(10羽・令和5年12月現在)を誇り、国の天然記念物であるタンチョウを、間近で観察することもできます。



JRで	岡山駅から伯備線で約25分 岡山駅から桃太郎線(吉備線)で約30分
お車で	岡山自動車道 岡山総社インターチェンジから約10分 山陽自動車道 倉敷インターチェンジから約15分